

(田中)

株式会社大木家の田中健次と申します。私ども、株式会社大木家は、豊橋市を中心にパチンコ店として、レストランそしてグループホームなどを事業として展開している会社になります。そんな会社で取り組みさせていただいています。「RUN 伴」というイベントを、本日はご紹介させていただけたらなと思います。よろしくお願ひします。

RUN 伴の愛知県代表者というふうになんか偉そうに名前がついていますけども、そんなに大したことはやってないので、わかりやすい説明ができるかどうか、分かりませんが、もし御質問等あれば、途中でも結構ですし最後でも結構なので、ぜひ気軽に御質問等いただけたらなと思います。

では、御説明をさせていただきます。

まずは、なぜ私がこの RUN 伴というイベントに参加するようになったかという話なんですけど、それが今日のテーマにも繋がってくるのかなと思っておりまして、私一応認知症サポーター養成講座を受けてはいるんですが、これは会社の決まりで、株式会社大木家グループの会社の決まりとして、接客時に、認知症のお客様と疑われるような方がみえた場合、スタッフとして、適切な対応ができるようにということで、会社全体でサポーター養成講座を受けていきたいと思います。ということで、始まりました。

私は会社の中で、人材教育の仕事をしておりまして、その中で携わってきました。サポーター養成講座を受けたのですが、実際お客様の中に、なかなか、認知症の方が毎日毎日来るというわけではないので、展開が広がっていかなかったんですね。サポーター養成講座を受けたけど、その後どうするんだみたいな話になりました。そこで何かできないかなとか、どうやって広げていこうかなって考えたときに、私どもの事業所で滋賀県のお店から、「RUN 伴」というイベントがあるんだけど、田中さん参加してもらえないかなというふうに誘いがありました。

その RUN 伴は、最初認知症関係のイベントだと知らなくて、体の不自由な方のマラソンの伴走者だというふうにお聞きしてたんですが、実際現地に行ってみると、認知症の方対象のイベントだよと言われてました。その時、滋賀県の彦根市に行ったんですが、彦根市長だとか、ゆるキャラのひこにゃんとかがこの RUN 伴のイベントに参加していて、有志の方や地域の方、地元の放送局、そして認知症の当事者の方が参加されてるのを見まして、とても楽しいイベントだなあといいことを感じて、愛知県でやってないのかなって、翌年調べたところ、愛知県は、名古屋の一部しかやってないよという話を聞きました。なんとか豊橋市内でできないかなと考えて始まったのが、私が RUN 伴に関わった経緯でございます。なので、ここから RUN 伴について少しお話をさせていただきます。

この中でRUN 伴のイベントに参加したって人いらっしゃいますか。

ありがとうございます。

名前は知ってるけどって人いらっしゃいますか。

結構な人数。お聞きいただいているんですね。ありがとうございます。

東京に本部があるんですが、本部の話によると、認知症のイベントでは日本一大きいものだよというふうに毎年のように言われているので、知名度としてはどうなのかなというふうに感じておりましたが、今日皆さんに手を挙げていただいたので、そこそこの知名度があるんだなというふうに安心しております。

まず、RUN 伴とはということで、認知症の人と一緒に、タスキをつなぐ体験を通じて、誰もが暮らしやすい地域づくりを推進する活動ということになります。タスキをつなぐ体験を通じて、誰もが暮らしやすい地域づくりを推進する活動です。認知症をテーマにしたイベントでは、日本最大級のイベントです。日本最大級のイベントとはいうけど、どの程度の人数が参加してるんだということで、後でまた御紹介させていただきたいと思います。

タスキをつなぐ経験とはということで、タスキをつなぐ体験日本全国、北海道から沖縄まで、オレンジ色のTシャツを着て、一本のタスキをつなぐリレーイベントです。北海道から沖縄まで一本のタスキを、つないで走るリレーイベントですね、走ると表現しましたが、決して走らなくても、歩いてでも全然構わないという形です。最近ですと、台湾だとかイギリスだとかも興味をわく方がいらっしゃいまして、台湾ではすでにもう開催されてるようなイベントとなっております。

RUN 伴のコンセプトですが、RUN 伴に参加する前は、認知症は怖い。認知症のことを勉強しないと駄目だよねえとか、認知症の人と、接した経験がない。今の日本、核家族化になってしまっていて、私が子どもの頃なんかはまだ大家族で、3世代が一つの家に暮らしてるような時代で、おじいちゃんおばあちゃんの様子を確認しながら生活してた時代がありますけど、今はもう核家族で、認知症の方とかと接する機会が全然ないよということで、なにか怖いとか、わからないとか、そんなイメージがすごく強いんじゃないかなあというふうに、認知症の人自身が問題視される社会でしたね。

最近では、こういったところが問題になって、いろいろな取り組みをされるようになってきましたが、それでもまだまだ認知症に関する情報というのは、なかなか受け入れてもらえないところがある。そこで、RUN 伴に参加していただいた結果、まず、認知症の方と出会って、そして話す機会にできたらいいんじゃないか。

そして、認知症というのは、決して他人ごとではなくて自分のこととしてとらえる機会になるのではないかと。自分の大切な人、ご家族とかね、お友達とかそして自分自身が認知症になった時どうあるべきなのか、そういったことを考え

る機会にして欲しい。

そして、それぞれができること、少し考えてみませんか。自分自身がなにかできるんじゃないかと。そういったことを考える機会になるんじゃないかということで、認知症の人と一緒に地域を作る動きをしていきたいと思いますというのが RUN 伴のコンセプトです。こんな思いで RUN 伴というのは、日本全国運営いたしております。

では、そもそも RUN 伴ってどうやって始まったのかと申しますと、今から 9 年前の 2011 年に初開催し、函館からスタートして札幌までタスキをつなぐというイベントから始まりました。そこから、年々距離が長くなっていきました。2016 年には、日本全国、北海道から沖縄まで、タスキ一本でつなぐ形となりました。

そして、2016 年に日本全国がタスキでつながったので、2017 年からは各都道府県単位で、RUN 伴を実施して、線から面へというコンセプトで、日本をオレンジ色に染めようということで、各都道府県で開催が始まりました。

そして、今年の 2019 年には 36 都道府県 503 市区町村にまたがってランナーがタスキをつないだ形となっております。ちなみに、走る人は登録ランナーといって登録制になっていて、その登録人数は、昨年 19,446 名でした。そのうち、認知症当事者のランナーが 2,035 名となっております。そんなイベントで、計 8 年間で延べ人数 91,500 人の方が、タスキをつないだ大きなイベントとなっております。

では続いて、日本全国の RUN 伴の歴史をお話しましたが、ここからは RUN 伴愛知の実施体制ということで、紹介をさせていただきます。

RUN 伴の主催団体は、NPO 法人認知症フレンドシップクラブというところが実施しております。東京に本部があり、北海道から沖縄までタスキが繋がったときは、こちらの本部がすべてイベントを管理しておりました。

ですが、各都道府県で開催するようになって、各都道府県に実行委員会を設けて、その実行委員会がメインとなって、RUN 伴を開催するという形をとりました。それが、RUN 伴愛知実行委員会の立ち上げということになっております。

昨年、愛知県は、7 ブロックに分かれて RUN 伴を開催いたしました。名古屋市を含めた、一宮市や江南市などの尾張ブロック、南知多から東海市まで知多半島ブロック、独自開催の名古屋市中区ブロック。こちらは、中区の方がご相談にみえたので、ぜひ中区だけでやってみましょうということで、中区だけ特別に、別の日程で実施いたしました。そして、春日井ブロック。春日井市の方も、自分たちで、市内で盛り上げたいんだという熱い思いで、問い合わせがありましたので、ぜひやりましょうということで、春日井市も一つ、単独で実施いたしております。

そして、豊田市や、碧南市、安城市、知立市の西三河ブロック。そして豊橋市や豊川市の東三河ブロック、そして新城ブロック。新城市はすごく広大で、行政を中心に、自分たちで実施したいんだという思いが強かったので、単独でやったほうがいいということで、新城市も単独でRUN 伴を開催いたしております。

登録ランナー575名、そして当事者の方が81名、参加していただきました。本来なら今年も同じようにRUN 伴を開催する予定ではいたんですが、残念ながら今回コロナがありまして、本部の方から、RUN 伴は中止にしましょうというお話がありました。今年、もしRUN 伴が開催されていたとしたら、ここにおそらく北名古屋が追加されていました。北名古屋も単独でやりたいんだということで、実は相談がありまして、頑張っってやっていきたいと思いますという計画をしてたんですが、残念ながらコロナが来てしまい、お流れになってしまいました。

こういったように、RUN 伴愛知実行委員会ということを設定はしておりますが、組織だったものは一切作っておりません。他の都道府県、他の都道府県は結構組織だって、責任者がいまして、広報や会計とか、イベント補佐とかいうことで、すごく組織だっている部分もあるんですが、愛知県は、うちがやりたいよ、私も参加したいよ、うちの町でやってよという意見のもとに、こういうゆるいって言い方、ちょっとまずいかもしれませんが気軽に参加できるようにということで、特に組織だっってはいません。私も代表はしておりますが、愛知県で1人代表を決めないと、RUN 伴は都道府県でやることできませんよと本部から言われておりますので、とりあえず、代表をしております。そんな愛知県実行委員会を紹介させていただきました。

では、続けて、RUN 伴ってどうやって楽しむのということで、走ってタスキをつなぎたい、又は当事者の方に走ってもらいたい、そういうイベントランナーや当事者の方と一緒に走ってサポートしてみたい。また、純粹にマラソンみたいに走ることを楽しみたいなども構いません。それから、事業所の行事として参加してみたい。グループホームなどの当事者の方が、生活されている事業所、そういったところから、事業所のイベントとして、参加させてもらえませんかなんていう楽しみ方もあります。

そしてもう一つが、イベントのサポートです。イベントの運営委員として参加したい。それから、イベントには参加できないけども、物品を寄付してみたい。例えばランナーさんへのドリンクであったりだとか、それから中継地点の駐車場であったりだとか、そういったものでサポートしてみたりとか。あと、イベント運営のボランティアをしてみたいんだと、いろいろな形でRUN 伴というのは、参加することができます。

決して走るだけではなくて、裏方のスタッフとしても、楽しんでいただけるんではないかなと思っております。

では、イベントランナーでタスキをつなぐということですが、こちらの写真は新城市で開催した様子ですね。もちろん、右側の写真のように、純粹にランナーとして楽しむこともできますし、左の写真のように、走れなくても構いませんと書いてありますが、この車椅子のおじいちゃんも、確かグループホームで生活されてるおじいちゃん、スタッフの方と一緒に走っていただいたというね、形をとっているかとは思いますが。

そしてイベントのサポートで、写真の方には、新城ブロックの給水スポットの様子が載っております。

こちらはマラソンの給水所と同じような感じで、マラソン大会の給水所と同じような感じでランナーさんにドリンクを差し出すサポート。もうひとつこの写真は春日井ブロックさんが集まった時の写真ですね、春日井ブロック、これ以外にも運営委員の皆さんいらっしゃいますが、このときは、1回目か2回目でしたかね、1回目か2回目の打ち合わせをした時の様子となっております。

RUN 伴は、2017 年から本部主導型から各都道府県主催の変更へと変わっていくわけですが、2017 年の時は、愛知県尾張ブロックと豊橋・豊川ブロックしかありませんでした。もっと言うと、知多半島、それから西三河、あと尾張の一宮だとか、江南、犬山で参加したいという人たちは、皆さん名古屋まで出てきていただいたんですね。名古屋の国道1号線沿い、豊明あたりから国道1号線に沿って、そして一宮の方に抜けていくというような、ランナーのルートをタスキでつないでいました。

そして、参加者の方からですね、地元でやってみたい、知多半島から参加してきてるんだけど、なぜ知多半島でやらないんですかとか、一宮なんですけど、もっと一宮のときに、昼間に走ってみたいとか、いろいろな意見が出てきたんですね。もっと仲間内で走ってみたいとか、もっと長い距離を走りたい。当時、RUN 伴の距離が大体1チーム、1キロから3キロぐらいの間だったんですね。

なので、そうすると、当事者の方からすると、1キロって長すぎるよねって。もう100メートルでも長いよということで、100メートルでもいいんじゃないとか、いろいろな距離を段取りしたほうがいいですよという話も出てきました。中には5キロ、10キロ走ってみたいなんていう方もいらっしゃいましたが、こういったように、距離を変えて欲しいと。

あと、当事者の方の笑顔を見れたので引き続き参加したいなんていう方もいらっしゃいました。中には、若年性の認知症の方に参加していただいて、もうそれこそ、一般の方と変わらないぐらいのスピードで、走って楽しんでいただいたということもありました。

それから、グループホームの行事にしたいと、毎年、愛知県のRUN 伴は、9月

10月あたり、9月10月の大体週末に、実施しているところはあるんですが、そこでグループホームの一つの年間行事に組み込みたいということで、ちょっと参加させてもらえませんかかっていったところもございました。

そして、一番大きかったのは、「走ってみて楽しかった。」「来年も参加するよ。」って言っていただいたのがすごく印象に残っております。こんなことから私、RUN伴の愛知県の代表として、携わってはいるんですが、この時は、代表者になる方がいらっしゃらなかったんで、形だけでもいいので、代表者になるということで、愛知県で開催したんですけども、最後の「楽しかった、来年も参加するよ、田中さんお願いしますね。」と期待をされてしまいましたので、この期待を裏切るわけにはいかないなということで、また私自身も、皆さんのお手伝いをするので、すごく楽しい思いをさせていただいたということで、この年からですね、愛知県の代表者として、RUN伴の方の運営いたしております。

そういったように、いろいろな意見が出てきた中で、行政から、市役所の方からも、ぜひ携わらせてくださいと、認知症理解の啓蒙活動にしてみたいんですと。春日井市の方だとか名古屋中区、それから豊橋市だとか新城市こちらの方たちからすごくお世話になりました。行政にも参加していただきました。

そして企業、企業なんかもう、何かできることはありませんか、認知症というけど、企業として参加する方法がわからないんですよって、誰か手助けしたいんだ。だけど、何をしたらいいのかわからない。そこでRUN伴のことを耳にしたので、何かお手伝いできることありませんかということで、社会貢献活動の一つとして、よくCSRだっていったりしますが、その一環として、参加させてくださいという企業さんもお見えになりました。協賛企業、RUN伴のイベント全体の協賛企業になったりとか、それから物品、イベント会場の提供をしたりなど、こういった形で参加していただきました。

私ども大木家グループも、協賛企業登録ということで、RUN伴全体の協賛企業となっております。

そして地域の方から、町おこしのイベントとして、何か一緒にできないでしょうかというご意見をいただきました。

特に去年は、介護業界の大きなイベントで東海市の太田川でオレンジフェスタというイベントを開催したんですが、そこにRUN伴のゴールを設けて、ぜひイベントを盛り上げて欲しい。一緒になって盛り上げましょう。なんていう意見も出ましたので、協賛とまではいかないですが、オレンジフェスタの一部に組み込んでいただきました。

新城市なんかは、軽トラ市ですね、軽トラの荷台で縁日、軽トラが何台も集まって、その軽トラの荷台で縁日を行う。そんなイベントがあるんですが、そこを練り歩く、そこを練り歩いて、ともに軽トラ市を盛り上げる、そしてRUN伴も

盛り上げるといった相互関係で盛り上がっていきましようなんていうご意見もありまして、最初は走るだけだったんですが、次第に行政も参加していただいたり、それから企業さんにも参加していただいたり、それから地域の中にも、こう喜んでいただいたりと、少しずつではありますが、支え合う輪っかが広がってきてるかなあと考えております。

行政は認知症理解の啓蒙活動ということで、豊橋長寿介護課は、ある会場借りきってそこで RUN 伴の紹介や認知症の相談センターだとか、それからお子様に対して認知症かるただとか紙芝居だとか、そういったことを行って、認知症の理解を深めるようなイベントをいたしております。

それから、名古屋市中区は、区全体で RUN 伴を実施していこうということで、大須商店街の中を確か練り歩いたような覚えがあります。RUN 伴の T シャツを着まして、認知症にやさしいまちづくりということで、大須商店街の中を練り歩いて、そして地元の方と盛り上がったというような、形で参加していただきました。

企業は社会貢献活動の一つとして、協賛金提供企業者数ということで、すごく驚いたんですけども、去年春日井市は、初開催、去年 RUN 伴は春日井市初開催だったんですが、協賛企業として 100 社、100 社の企業から寄付金をいただきました。協賛金をいただきました。イベントで使ってください。80 万という金額が初めてのイベントにもかかわらず、集まった。それだけ、市全体で盛り上がったという結果ですね。それから、新城ブロックでも 21 社、およそ 18 万円、集まっております。

こういった形で、企業を巻き込んで、イベントを実施いたしております。イベントに参加することはできないけど、タスキの中継地点として、会社の駐車場使ってよとか、熱中症対策でドリンクの差し入れしますよなどがありました。

それから、イベント会場の設営に会社の備品のテーブルやテント、椅子などのそういったものを使ってもらって結構ですよというご意見をいただきまして、すごく助かった思い出がございます。

そして、地域社会ですが、先ほども御案内させていただきましたけど、新城市の軽トラ市のイベントに乗かって開催する、そして、東海市のオレンジフェスティバルのイベントに乗かって開催する。こういった形で、次第に RUN 伴、もつという認知症の理解を深める輪っかが広がっていております。

そろそろまとめに入らせていただきますが、誰もが暮らしやすい社会、認知症にやさしい地域になってほしいと、ここに参加されている皆さんも思っていると思うんですけども、私もそう思っておりますが、何をしたらいいのかとか、どうやったらやさしい社会になっていくのかといったところが、なかなか実感として湧いてこないし、一歩が踏み出せない。

それが、RUN 伴というイベントを通じてですね、RUN 伴というイベントを通じ

て、当事者の方、そしてご家族、それから行政、地域住民の皆様、そして企業、こういった方達が、目指すこの暮らしやすい社会ですね、認知症になっても暮らしやすい社会になれるようにということで、RUN 伴が、それをつなぐイベントになれば、きっと何か変わっていくんじゃないかということで、RUN 伴というものを実施いたしております。

私自身も、最初は認知症ということに全く興味を示しておりませんでした。最初はRUN 伴を体の不自由な方のマラソンイベントと勘違いしたくらいですから、全く意識したことがなかったんですが、参加する、イベントをお手伝いするということで、地域の人が喜んでくれるなら、お手伝いしようかなとか、認知症になってもすべてが、もの忘れ、わからない人たちばかりじゃないんだなということが理解できて、さらにですね、お手伝いすることができないかなという思いで、今も参加しておりますので、認知症サポーター養成講座を受講して、認知症のことを理解したけど、そのあとどうしようと考えてらっしゃる方も結構いるかと思うんですね、勉強はしたけど、何したらいいのかなって、お悩みの方もいらっしゃると思います。

そういったところで、認知症にやさしい社会へのきっかけ、そして足がかり、第一歩としていただければいいのかなと思って、RUN 伴を開催しております。RUN 伴を開催したからといってやさしい社会になっていくとは思っておりません。ただ、やさしい社会になれるように、その第一歩として、きっかけづくりとしていただけたならそれでいいのかなと考えております。

以上、RUN 伴について御説明をさせていただきました。ご清聴ありがとうございました。

(司会)

田中様、ありがとうございました。皆様、もう一度田中様に拍手をお願いします。

(田中)

ありがとうございました。

もし皆さんの地元に戻っていただいて、来年、RUN 伴を開催するということが決まりましたら、ただ、コロナの第3波の関係もありまして、本当に開催するかどうかは今後の流れ次第ですが、もし興味を持たれたとか、もう少し話を聞いてみたいだとか、うちの地域でも、RUN 伴を開催してみたいということでしたら、ぜひ、資料の最後に、連絡先だとか、それからホームページのアドレスを載せておきました。ぜひご参考にいただけたらなと思います。

今日はありがとうございました。